

「ハノイ国家大学サマースクールプログラム参加報告書」

京都大学教育学部教育科学科2年 三橋 亮太

2013年ベトナム・ハノイ国家大学サマースクールプログラムでは、午前中はベトナム語・文化講座を受講し、午前から午後の時間は現地の高校、大学での日本語の授業に参加しました。このプログラムを通して私が最も印象に残っていることは、高校、大学での日本語の授業に参加して、たくさんのベトナムの人々と交流できたことです。どの日本語の授業でも温かく歓迎してくださり、ベトナムの人々の温かさが感じられました。日本語の授業では難しい日本語を何度も繰り返し発音し、授業後に私たちと話すことで日本語の力を伸ばそうとしている姿に感銘を受け、私もベトナムの人々のように主体的に語学を学んでいきたいと強く思いました。授業後に現地見学や観光をベトナムの人々とできたことも大変良い思い出です。日本とは比べものにならないほど多いバイク、ベトナムの歴史について教えてくれ、工芸村で焼き物体験を手伝ってくれたりベトナムの学生と一緒に過ごした日々が忘れられません。また2回、日越学生交流及び発表討論がありましたが、ベトナムの学生は私たち日本人の発表を熱心に聞いて、積極的に日本語で質問もしてくださり、また私たちもベトナムの人々の発表を聞くことで、ベトナムの伝統的な人形劇や食文化について学べて大変有意義な時間を過ごすことができました。

私はこのプログラムを通して、ベトナムのこともとても好きになりましたし、これからも様々な国に赴き、現地の人々とたくさん交流したいという思いがさらに強くなりました。日本で座学において勉強することはもちろん必要ですが、実際に行ってみないとわからないことはたくさんあると思います。そして、人々との交流は現地でしかできない貴重な経験です。今回のプログラムでも、出会った人々すべての笑顔が私にとってかけがえのない宝物です。実際に海外に行って、日本文化や日本の考え方などについて伝え、海外で現地の文化や考え方について学ぶ機会はとても大切だと思います。海外のことについて考える時、ふと日本のことについて思いを馳せると、日本のことでも知らないことがたくさんあり、海外に行くことは自国について改めて客観的に考え、知る良いきっかけにもなります。今後もこのように海外で学ぶ機会があれば積極的に参加し、出来る限り多くの国を訪れ、深い教養と国際理解力をもって一人の国際人として活躍していきたいと思えます。

ベトナムでは毎朝、にわたりの鳴き声で目が覚め、近くの屋台でフォー(麺)やバインミー(パン)を食べて1日の生活が始まります。日本ではなかなか体験することのないベトナムでの経験をしっかりと心の中にとどめ、今後の人生に活かしていきたいと思えます。